

平成26年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	四日市市障害者福祉センター
所在地	四日市市諏訪町2番2号
指定管理者	<p>名称 社会福祉法人 四日市市社会福祉協議会</p> <p>代表者 会長 伊藤 八峯</p> <p>住所 四日市市諏訪町2番2号</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒヤリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	<p>健康福祉部障害福祉課</p> <p>TEL：059-354-8171</p> <p>E-mail：syougai Fukushi@city.yokkaichi.mie.jp</p>

■ モニタリングの総合コメント

当施設のデイサービス事業については、身体障害者向けに言語訓練・理学療法・言語訓練などの機能訓練、創作的活動、歩行訓練、点字教室などを行い、また、障害児向けには、夏休み等学校の長期休暇期間中に活動の場を提供することで、障害児の自立と自主性を育み、保護者の休息時間の確保を可能としました。

運営事業として、社会参加支援活動（失語症会話パートナー交流会、難聴者・中途失聴者教室）を実施しました。また、啓発・情報提供として、福祉講座の開講、広報誌への掲載、更生相談の場での情報提供や専門職によるコーディネートを行いました。その結果、身体障害者のための自立や社会参加の促進を図るといった施設の設置目的を達成していました。

サービス向上のため、事業全体に関するアンケートを実施し、利用者の意見を広く集め事業全体を振り返るとともに、各種団体・行政からも意見を求め、円滑な運営につなげていました。さらに、職員研修を必要に応じて実施し、職員間で知識の共有を図るなど資質向上に努めていました。

適正な管理・運営のために、業務日報での管理やデイサービス実績簿、各種マニュアル・台帳を作成し、これらに基づき日々の業務・施設の維持・経理等を管理しつつ、円滑な事業運営と経費の削減を果たしていました。

また、トラブルの未然防止と対応のため窓口を開設したり、安全管理・個人情報の保護のための体制を整備するなど、利用者の安全・衛生への配慮がなされていました。

以上のことから、本施設は条例・規則を遵守し、募集要項、仕様書に定める業務を適正に実施したものであり、その設置目的を達成していると言え、総合的に見て良好であると判断します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

今後の業務改善については、以下のとおり、市の運営方針を指導していきます。

- ・当施設の目的である障害者の機能訓練、デイサービス、社会との交流促進や障害者に関する各種相談について、社会福祉協議会としての専門性が活用され、充実した運営がなされたが、児童デイサービスなど要望が高い事業については、安全・安心に運営できる体制づくりのため、更なるボランティアの確保に向け努力を続けること。

- ・本市の音声・言語障害者への情報支援体制を確立するため、三重県の要約筆記者制度の動向も視野に入れながら、要約筆記者養成講座の開講など、要約筆記者派遣制度の体制づくりに向けて検討すること。

- ・事業運営にボランティアが欠かせないため、ボランティアセンターとの連携を強化し、より充実し、安定した事業の実施に努めること。

- ・ハード面では、障害者が安全かつ安心に利用できるよう、引き続き、維持管理を徹底すること。

基本的な考え方（施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮）

合目的性・公平性・効果性

専門職による機能訓練（理学療法・言語訓練）、創作的活動や社会適応訓練（視覚障害者の白杖歩行訓練や点字教室）などのデイサービス事業を実施することにより、障害者の自立と社会参加の促進が図られていました。また、啓発活動についても、障害者福祉関係団体や地域との連携により福祉講座・出前講座を開催するなど工夫して行なわれており、施設の目的に沿った適切な管理運営が行われていました。出前講座等では、障害当事者を講師として招き、障害理解に寄り添った内容となっており評価できます。

施設の管理運営や利用者への対応については、社会福祉協議会として、利用者やその保護者から高い信頼を得た中で、公正に運用されていました。管理経費については、人件費を抑えるなど経費の削減を図りつつ、計画に基づく事業が適正に実施されていました。また、指定管理者としての特性を生かし、同協議会が実施している各種サービスや関係団体と連携を図り、障害者福祉施設として一定の成果がありました。

業務内容

機能性・独創性（事業への具体的な取り組み方）

社会福祉協議会として信頼を維持し、適正かつ柔軟な管理運営が安定して実施されていました。特に、同協議会が運営する障害者自立生活支援センター（かがやき）、障害者就業・生活支援センター（プラウ）、三泗地域権利擁護センター等も隣接して設置されていることから、これら関係機関と連携し、より質の高いサービスの提供に努めていました。また、民生委員や地域との連携のもと、障害当事者を講師に招き、地域で出前講座を実施したり、福祉講座を開催するなど障害や障害者の理解を促進するための工夫がされていました。出前講座の実施回数が計画を下回っていたことについては、今後の課題であり、検討を行っていただきたい。

責任性・実行性（施設の運営体制や組織）

運営状況については、条例・規則等を遵守し、年間を通じて適切に行われていました。当施設の目的を果たすための有資格職員の配置についても適切に行なわれていました。また、障害者総合支援法の改正や職員の経験年数に応じた研修等に積極的に参加するとともに、その内容を他の職員と共有するなど、サービス向上を意識した運営がなされていました。さらに、定期的に指定管理者と市担当課による連絡調整会議を開催するとともに、適宜、連絡を取りながら、懸案事項を協議しました。

明瞭性・規律性（適正な事務や経理）

指定管理における受託金収入や、事業費、人件費などの支出について適正に処理され、経理関係書類も整理されていました。また、毎日の利用状況や年間行事等に関する書類も整理されていました。

安全性（安全管理、緊急時等の対応）

当施設は、四日市市総合会館内に設置されていることから、総合会館の警備員と連携して防犯等に努めるとともに、緊急連絡網や防災マニュアルを整備していました。個人情報保護については、ミーティング等を通じ職員に周知するとともに、誓約書を提出させるなど、意識向上に努めていました。保険についても、施設賠償責任保険等への加入がなされていました。

社会性（環境等への配慮）

職員は四半期ごとにYESチェックを実施し、無駄を省き、環境に配慮した業務の執行に努めていました。利用者に対しても、ゴミの分別やリサイクル等への協力を求めるなど、環境に配慮した施設運営が行われていました。また、備品等の点検・整理を行い、より安全で利用しやすい環境の整備に努めていました。

事業収支

経済性

当初の計画では赤字となる見込みでしたが、法人全体の人事交流により人件費の支出を抑制したことから、平成26年度の事業収支について適正な範囲内で管理されました。

団体の経営状態

経営の健全性

貸借対照表、損益計算書などを分析した結果、大きな問題は無く、社会福祉協議会の公共性からの財政基盤も含め、安定していると判断しました。

その他

障害者雇用に対する取り組み

障害者雇用率については3.93%で法定基準の2.0%の1.97倍となっており、取り組みは強化されています。また、障害者支援の一環として、就労予定者に対して就労実習の受け入れを行っている点も評価できます。

施設概要調書

1. 施設の概要

平成26年度

施設名	四日市市障害者福祉センター		所管課： 障害福祉課
所在地	四日市市諏訪町2番2号		設置年月： 平成2年8月
設置目的	身体障害者及び障害児に対し機能訓練、教養の向上、社会との交流の促進等のための便宜を総合的に供与するほか、障害者に関する各種相談に応じることにより、自立と社会参加の促進を図る。		
設置の根拠 (法令、条例等)	身体障害者福祉法、四日市市障害者福祉センター条例		
施設の概要	設備の概要	敷地面積 (㎡)	2,120.0
		延床面積 (㎡)	1,476.3
		四日市市総合会館 2階：事務室、障害者団体事務室、総合相談室、ボランティア活動室 3階：軽作業室、療育訓練室、和室研修室、言語訓練室、社会適応訓練室 4階：機能回復訓練室、栄養指導室(調理室)…保健所と共用	
	事業概要	①障害者デイサービス(身体障害者及び障害児対象) ②身体障害者の更生のための各種相談 ③身体障害者福祉に関するボランティアの育成及び市民啓発 ④身体障害者の福祉に係る活動に対する施設の提供	

2. 運営状況

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
開館日数	244日	244日	計画通り
開館時間	8:30~17:15	8:30~17:15	計画通り

3. 利用実績

項目	前年結果	実施内容 (事業報告書)	計画対比	
延べ利用者等数計	3,936	3,677	△ 259	
延べ利用者数	身体障害者デイサービス	1,549	1,538	△ 11
	障害児デイサービス	74	72	△ 2
	失語症会話パートナー交流会	415	413	△ 2
	自主サークル活動支援	1,649	1,512	△ 137
事業延べ参加者数	難聴・中途失聴者教室	36	39	3
	福祉講座・出前講座	213	103	△ 110

4. 事業収支

(単位:円)

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
指定管理料	39,400,000	39,400,000	0
収入計	39,400,000	39,400,000	0
人件費	37,473,000	29,431,974	△ 8,041,026
管理費	5,921,000	4,984,691	△ 936,309
消耗品費	301,000	314,768	13,768
燃料費	264,000	166,455	△ 97,545
印刷製本費	50,000	18,716	△ 31,284
光熱水費	0	0	0
修繕料	550,000	340,459	△ 209,541
通信運搬費	162,000	173,952	11,952
広告料	100,000	0	△ 100,000
手数料	0	0	0
保険料	344,000	307,050	△ 36,950
委託料	1,821,000	1,601,412	△ 219,588
賃借料	2,151,000	2,038,438	△ 112,562
その他	178,000	23,441	△ 154,559
事業費 (ソフト事業等)	0	4,200	4,200
減価償却費	0	122,631	122,631
固定資産売却損、処分損	0	30,085	30,085
一般管理費	2,250,000	2,249,856	△ 144
支出計	45,644,000	36,823,437	△ 8,820,563
収 支	△ 6,244,000	2,576,563	8,820,563

平成26年度 障害者福祉センター 運営状況 チェックシート

1. 運営企画

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
開館日数	244日	244日	計画通り	計画通り開館された。	適
開館時間	8:30~17:15	8:30~17:15	計画通り		

2. 利用実績

項目	前年実績	実施内容	対前年比	検証・分析等	適否	
延べ利用者等数計	3,936	3,677	△ 259	自主サークル利用者の減により、前年度に比べ延べ利用者数が減少した。利用者の減の主なもの、指導者の退任によるサークル数の減である。(サークル数 H24:12、H25:10、H26:9) また、出前講座は年間1回と計画を下回った。 デイサービス事業の創作的活動では、企画内容を変更したものの、パソコン台数に限りがあったため、申込者全員が参加できず参加者数の伸びにつながらなかった。今後は実施方法の工夫による改善を指導していく。	適	
延べ利用者数	身体障害者デイサービス	1,549	1,538			△ 11
	障害児デイサービス	74	72			△ 2
	失語症会話パートナー交流会	415	413			△ 2
	自主サークル活動支援	1,649	1,512			△ 137
事業延べ参加者数	難聴・中途失聴者教室	36	39			3
	福祉講座・出前講座	213	103			△ 110

3. 事業収支

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
指定管理料	39,400,000	39,400,000	0	計画より1名減の体制で実施したが、他部門との連携強化を図って事業を実施しており、適正であると判断する。	適
雑収入	0	0	0		
繰入金	0	0	0		
収入計	39,400,000	39,400,000	0	[勤務体制:常勤4人,非常勤6人] 正規職員人件費の減により、支出実績は計画を下回った。 その他の費用についても、計画に対する増減はあるものの、全体的としては計画を下回っており、決算は良好であると判断する。	適
人件費	37,473,000	29,431,974	△ 8,041,026		
管理費	5,921,000	4,984,691	△ 936,309		
消耗品費	301,000	314,768	13,768		
燃料費	264,000	166,455	△ 97,545		
印刷製本費	50,000	18,716	△ 31,284		
光熱水費	0	0	0		
修繕料	550,000	340,459	△ 209,541		
通信運搬費	162,000	173,952	11,952		
広告料	100,000	0	△ 100,000		
手数料	0	0	0		
保険料	344,000	307,050	△ 36,950		
委託料	1,821,000	1,601,412	△ 219,588		
賃借料	2,151,000	2,038,438	△ 112,562		
その他	178,000	23,441	△ 154,559		
事業費(ソフト事業等)	0	4,200	4,200		
減価償却費	0	122,631	122,631		
固定資産売却損、処分損	0	30,085	30,085		
一般管理費	2,250,000	2,249,856	△ 144		
支出計	45,644,000	36,823,437	△ 8,820,563		
収支	△ 6,244,000	2,576,563	8,820,563		

総合コメント

事業の見直しや工夫を行って適切な事業実績を残したことから、総合的にみて良好に運営されていたと判断する。

平成26年度 障害者福祉センター 運営状況 チェックシート①-2

項目	事業分析	適否判断	
利用実績	<p>開館日数 : 244日 延べ利用者 : 3,677人</p> <p>※年間事業計画書に基づいて実施されたが、利用実績（延べ利用者数）については、平成25年度実績3,936人を下回った。 利用減の主なもの、自主サークル利用者の減である。要因としては、指導者の継続が退任によるサークル数の減である。平成24年度のサークル数12から平成25年度はサークル数10へ、平成26年度は9とさらに減少した。 失語症会話パートナー交流会への参加人数は横ばいで、福祉講座については若干増加したが、出前講座においては5回の予定が1回しか実施されなかった。地域との連携によって実施可能となるため、今後は地域との綿密な調整等を指導していく。 デイサービス事業については、創作的活動で新たな取り組みを行うなど、評価できる内容であった。これにより、男性の参加者が増えるなど、ニーズの掘り起こしができ評価できる。 事業の実施においては、障害者の社会参加と自立支援のための工夫や検討がなされており、障害者福祉センターとしての役割を十分果たしていると判断した。</p>	適	
事業 収支	収入	指定管理料のみ	適
	支出	<p>人員については、法人全体の人事交流や方針により、当初計画より1名減の配置となり、人件費について計画を下回る結果となった。 また、昨年と同様、一部フレックスタイムの活用や勤務日の振替等を継続して、時間外手当が抑制されたことや、人事異動により職員の平均年齢が下がったことも影響している。 賃借料及び委託料については、要約筆記者の養成を図る事業の実施を見送ったため、関連する駐車場使用料や講師謝金が減ったことによるもの。失語症会話パートナー交流会や、難聴者・中途失聴者教室については充実が図られた。 その他の費用についても、計画に対する増減はあるものの、全体的には計画を下回る結果となった。</p>	適

平成26年度 障害者福祉センター 業務の履行状況 チェックシート

分類	対象	項目	確認方法	検証・分析等	適否
総則	業務従業者の要件等	業務執行体制（各業務・作業責任者等）が明確になっているか、また、変更した場合連絡先を市に届出されているか	書面確認	適切に報告等されている	適
	法令等の遵守	法令等で定められた書類を提出したか	実地確認	地方自治法など各種法令・規程に関する書類は提出されていた	適
	報告書等の提出	各業務計画書・報告書は提出されたか	4/1計画、5/8報告、月次報告確認	仕様書通り行われている	適
		自主事業の計画書・報告書は提出されたか	4/1計画、5/8報告、月次報告確認	仕様書通り行われている	適
		取支予算書・決算書は提出されたか	4/1計画、5/8報告、月次報告確認	仕様書通り行われている	適
	意思疎通	市と指定管理者との責任者との間で十分に連絡がなされているか	施設連絡会議・ヒアリング	必要の都度連絡調整を行っており、十分に情報共有が行われている	適
	各種管理記録等の整備保管	各種業務計画書が整備、保管されているか	実地確認	整備・保管されている	適
		業務日誌等の報告書、点検記録は整備、保管されているか	毎月書面・実地確認	整備・保管されている	適
		整備・修繕・事故・故障の履歴は整備、保管されているか（事業期間終了時まで）	実地確認	整備・保管されている	適
		付保している保険を市に通知しているか（更新を含む）	書面・ヒアリング	協定書通り行われている	適
非常時・緊急時の対応	緊急事態発生時の対処マニュアル（緊急連絡網の掲示を含む）が整備、保管されているか	実地確認	仕様書通り行われている	適	
	緊急発生時、ないし危険が予測される場合に直ちに措置を講じたか 事故等の報告書が提出されたか	— —	— —	— —	
建築物保守管理	点検・保守	点検・保守は確実に実行されているか 法定点検、検査は選任資格者の責任によって計画・実施されているか			
設備保守管理	取扱説明書	機器等の取扱説明書が整備・保管されているか			
	点検・保守	点検・保守は確実に実行されているか 法定点検、検査は選任資格者の責任によって計画・実施されているか			
備品・什器等保守管理	取扱説明書	機器等の取扱説明書が整備・保管されているか	実地確認	整備・保管されている	適
	点検・保守	点検・保守は確実に実行されているか	実地確認	点検・保守は行なわれている	適
外構施設保守管理	点検・保守	点検・保守は確実に実行されているか			
清掃業務	清掃	清掃は確実に実行されているか			
警備業務	業務等	業務が計画書に基づいて実施されているか	ヒアリング	計画どおり実施されている	適
		不審者に対し適宜質問をしたり、警察へ通報する等のマニュアルを作成しているか	ヒアリング・実地確認	総合会館の警備員と連携して行っている	適
	鍵管理	マスターキー等の管理は適切か	実地確認	適切に管理されている	適
	防災	マニュアルは作成されているか	実地確認	作成されている	適
植物育成管理業務	樹木管理	剪定時期等は適切か			
	花壇管理	四季の植栽は適切か			
施設利用案内	行事開催案内	パンフレット類は整備されているか	実地確認	パンフレット類は整備されている	適
	ホームページ作成	ホームページは更新されているか	毎月確認	ホームページの更新はされている	適
管理システム受付業務	機器管理	研修を実施しているか	—	該当なし	—
	システム管理	更新・変更は常になされているか	—	該当なし	—
		トラブルに対応したか	—	該当なし	—

総合コメント

法令等の遵守及び募集要項等に基づく業務計画等の実施について誠実に履行されていた。月例報告書等も期限までに提出されており、職員の配置、各種マニュアルの作成・管理、備品等の管理、保険の加入等についても適正に行なわれており、業務の履行状況は適正であると判断する。

平成26年度 障害者福祉センター 自主事業の実施状況 チェックシート

項目	実施計画	実施内容	検証・分析等	適否
言語訓練	月～金曜日 9:00～17:00	言語障害のある人を対象に言語症状や身体の状態に合わせて個別及び集団の訓練を行った	1人ひとりの状態にあわせて訓練が実施されるとともに、同協議会が運営する関係機関と連携を図りながら自立支援、社会参加に向けた支援もなされており評価できる。	適
理学療法	月曜日 9:00～17:00	事故や疾病の後遺症などにより身体機能が低下した人を対象に機能訓練を実施した。また、公共交通機関の利用訓練や自主訓練の指導を行った	1人ひとりの状態にあわせて訓練が実施されている。また、身体機能の回復だけでなく、生活実態に即した実用的な訓練や指導も実施されており、評価できる。	適
歩行訓練	火・木曜日 午前・午後各2時間	視覚障害者を対象に安全な移動手段を獲得するために白杖歩行訓練を実施した。また、白杖の紹介や同行援護利用時の技能等の相談にも応じた	社会参加に向け必要となる訓練及び歩行に関する相談に対し、訪問等でも対応がなされており高く評価できる。	適
児童デイサービス	夏休み等長期休暇期間のうち、水曜日を中心に実施 10:00～15:00	18歳未満の児童対象のデイサービスを実施した	ボランティアが確保できる日は、定員を増やして対応しており評価できる。	適
福祉講座・出前講座	年5回程度を予定	福祉講座 「難聴者・中途失聴者教室」 難聴者・中途失聴者が実行委員として参画して内容の検討を行った(年2回) 「出前講座」 障害当事者が講師となって地域で講演を行った(年1回)	広報紙や各種会議において当該講座のPRを行い、地域における障害者に対する理解や支援につなげる講座を実施している。障害当事者のみならず専門家を講師として招いて講演を開催するなど、啓発に取り組みしており、評価できる。	適
失語症会話パートナー交流会	第1火曜日 10:00～11:30 第3火曜日 13:30～15:00	失語症者と会話パートナーとの交流会を実施した(22回)	失語症者が失語症会話パートナーを利用して、会話を楽しむ場を提供したもので、社会参加する一助となっており評価できる。	適

総合コメント

障害者の自立や社会参加に向けての様々な支援は、同法人が運営する相談窓口等の関係機関と連携を図りながら、障害者1人ひとりの希望や状況に応じた形で支援内容が工夫されていた。
また、障害者が地域で安心して暮らしていくために、障害の特性や障害者に対する理解のための講座を開催するなど、様々な活動が行われており、その内容は十分評価できるものであった。

平成26年度 障害者福祉センター 設備・備品の維持管理状況 チェックシート

分類	対象	項目	確認方法	検証・分析等	適否
総則	意思疎通	市と指定管理者の責任者との間で十分に連絡がなされているか	ヒアリング	定期的な連絡調整会議の開催の他必要の都度連絡調整を行っている	適
	記録	整備・修繕・事故・故障の履歴は整備、保管されているか	実地確認	管理台帳に記録、保管されている	適
建築物保守管理	点検保守	点検によって異常が認められる場合は、速やかに修繕、交換、分解整備、調整等を行っているか			
		不具合が生じた場合の報告を適切に行っているか			
	修理	修理、更新が必要な場合は原因等を含めて速やかに報告しているか			
	修理	修繕工事は適切であったか			
設備保守管理	点検保守	点検によって異常が認められる場合は、速やかに修繕、交換、分解整備、調整等を行っているか			
		不具合が生じた場合の報告を適切に行っているか			
	修理	修理、更新が必要な場合は原因等を含めて速やかに報告しているか			
	修理	修繕工事は適切であったか			
備品・什器等保守管理	点検保守	点検によって異常が認められる場合は、速やかに修繕、交換、分解整備、調整等を行っているか	ヒアリング・書面確認	台帳管理し、適切に行っている	適
		不具合が生じた場合の報告を適切に行っているか	ヒアリング・書面確認	台帳管理し、適切に行っている	適
	修理	修理、更新が必要な場合は原因等を含めて速やかに報告しているか	ヒアリング・書面確認	台帳管理し、適切に行っている	適
	修理	修繕工事は適切であったか	ヒアリング・書面確認	必要な什器を修理し、適切にメンテナンスしていた。	適
外構施設保守管理	点検保守	点検によって異常が認められる場合は、速やかに修繕、交換、分解整備、調整等を行っているか			
		不具合が生じた場合の報告を適切に行っているか			
	修理	修理、更新が必要な場合は原因等を含めて速やかに報告しているか			
	修理	修繕工事は適切であったか			

総合コメント
 総合会館内に立地することから、建物や設備についての対応は管財課が行うため、指定管理者での対応事例はなかった。
 備品については、故障・修理や更新の都度、市へ報告されていた。また故障や修理の状況を管理台帳によって記録、管理しており、備品の維持管理業務については、適正に履行されていると判断した。

平成26年度 障害者福祉センター サービスの質 チェックシート

分類	対象	項目	確認方法	検証・分析等	適否	
運営業務	使用許可、利用料金の徴収	スムーズに予約できたか	ヒアリング・実地確認	混雑・混乱なく予約されている	適	
		許可証は速やかに発行されたか	ヒアリング・実地確認	仕様書通り行われている	適	
	施設利用案内	行事開催案内の時期は適切か	ヒアリング・実地確認	実施の1～2ヶ月前に案内しており、適切である	適	
		ホームページは見易いか	実地確認	画面構成・内容とも分かりやすいものであった	適	
	受付・応対業務	担当者の接客態度は良かったか	実地確認	良好であった	適	
		利用者に対する指導は適切であったか	実地確認	適切に対応されていた	適	
		業務従業者は名札を着用しているか	実地確認	着用していた	適	
運営業務	講座やイベントは満足できる内容であったか	月次報告・ヒアリング	障害当事者が参画した企画を行い、実行委員会形式で障害者が参加するなど工夫されており満足できる内容であった	適		
維持管理業務	施設・設備の保守管理業務	施設が利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか	ヒアリング・実地確認	適切に管理されていた	適	
		設備が利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか	ヒアリング・実地確認	適切に管理されていた	適	
	清掃業務	トイレトーパー、消毒用品、手洗い用石鹸は常に補給されているか				
		全体的（駐車場を含）に、見た目清潔に保たれているか				
	警備業務	避難経路には障害物がないか				
	外構・植栽管理業務	機能・美観が良好な状態に保たれ、利用者が安全に利用することができるか				
		利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか				
		樹木・花壇は見栄え良く管理されているか				
		草刈りや除草はされているか				
	環境衛生管理業務	快適に利用できる環境となっていたか	実地確認	快適に利用できる環境となっていた	適	
廃棄物処理業務	廃棄物は適切に分別が行われていたか	ヒアリング・実地確認	適切に分別が行われていた	適		
備品管理業務	利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか	ヒアリング・実地確認	適切に管理されていた	適		

総合コメント

専門職による機能訓練（理学療法・言語訓練）、視覚障害者にかかる白杖歩行訓練などのデイサービス事業を1人ひとりの状況に合わせ、また、訓練を受ける側の意思を尊重する形で実施することにより、障害者の自立と社会参加の支援を行っていた。啓発活動も計画的に実施されていたが、出前講座については開催回数を伸ばせるよう検討が必要であると考えた。

利用希望の多い児童デイサービスにおいては、ボランティアの確保できる日には定員を増やして対応するなど、ニーズに応えられるよう努力していた。

また、指定管理者としての特性を生かし、同法人が運営し、隣接する障害者自立生活支援センター（かがやき）、障害者就業・生活支援センター（プラウ）、地域包括支援センター、三四地域権利擁護センターとも連携し、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われた。